



**テキスタイル・マテリアルセンター
ってどんなところか調べてみました**

総力取材
マテセンってどんなところ？

特集

対談

**魅力的素材から生まれる個性的デザイン
～起点としてのテキスタイル・マテリアルセンター～
岐阜毛工×イワゼン×FDC**

特集 対談

魅力的素材から生まれる個性的デザイン
〜起点としてのテキスタイル・マテリアルセンター〜

今回、ファッションデザインセンター取材陣は、テキスタイル・マテリアルセンターで、素材からデザインを作るデザイナーさんを支援するお二人に話を聞いてきました。



Yoshiyuki Iwata

テキスタイルデザイナー

岩田 善之



Koji Yamada

岐阜県毛織工業協同組合

専務理事

山田 幸士

岩田さん(以下『岩』)
山田さん(以下『山』)
松岡さん(以下『松』)

「マテセンにはどのような施設ですか。またどんな役割がありますか。」

山「国内産地の復興を願って作ったものです。だれでも利用できる素材の図書館としての役割をもっています。アパレルの方やデザイナーさんにとっては、次のシーズンの企画を考える場所となっています。また、アパレルさんとテキスタイルメーカーさんが一緒に来て、アパレルさんの考えているものをよりスピイディーに伝えるときに利用されることもあります。」

「実際に素材を見ることがよって、スピードアップが出来るということですね。山「思っているものを伝えるときに何もないと伝えるのは難しいです。何回も何回も作り直すことにより時間もかかりますからね。ファッションはスピードが求められるところがあるので、そこでマテセンの生地をいくつも出すことによって意思を伝える。これによりコストダウンとスピードアップを図れます。」

山「また、常設展示場という意味もあります。PTJ・JC・インテキ上海・ミラノウニカの展示会のインデックスが全てここに集まるので、メーカーを探すことができます。」

・匠ネットワークのメンバーでもある岩田さんは、マテセンとどのように関わっているのですか。

山…当組合の副理事長として及び素材の専門家として、いろんな素材相談に應じてもらっています。特に若いデザイナーをバックアップすること、尾州産地のファンを増やしていきたいのですが、若いデザイナーは立ち上げたばかりなので、作る素材のロットが小さいのです。そういった方を取り込もうとすると、小ロット対応が出来るような個人でやってみて、しかも技術がなければいけない。またそういう心意気がある人でないといけない。そこで岩田さんとなるわけです。

岩…若いデザイナーであろうと学生であろうと、資材の人、インテリアの人、一般の人、相談に乗ってきた人には、わかる範囲内で教えるようにしています。

山…よくマテセンばかり行って何やっているのと聞かれることが多い(笑)。最近の来客数は、山田さんが一人でやっていてこなせるような来客数じゃないですからね。ここを事務所代わりにさせてもらってサポートをしています。

山…専門家がいるといたないのでは相談の質が違いますからね。



一年間でどのくらいの人がマテセン利用しますか。

山…約2000人です。年々利用者は増加しています。

どのような業種の方が主に利用されますか。

山…アパレルデザイナー、テキスタイル関係、学校関係が三分の一ずつですね。ファッション衣料が中心、カーシート・壁紙・インテリア関係の方も来るようになってきました。

デザイナーさんはたくさん来ますか。

山…たくさん来ます。有名なデザイナーさんが来ることもありますし、若手のデザイナーも来ます。大手のブランドをテキスタイルメーカーさんが連れてくることもありますね。利用するデザイナーさんはどのような目的で利用されますか。

6ページに続く



総力取材

マテセンってどんなところ？

テキスタイルマテリアルセンターは、テキスタイルメーカーやアパレルメーカーが次の企画のヒントを見つける“素材の資料館”です。同時に過去の開発素材から最新のものまで日本中のすぐれた素材が一同に集まってくる仕組みにしてあるため、アパレルやデザイナーとテキスタイルメーカーが展示素材を介して出会いの場となるべく、常設展示場の役割も果たしています。

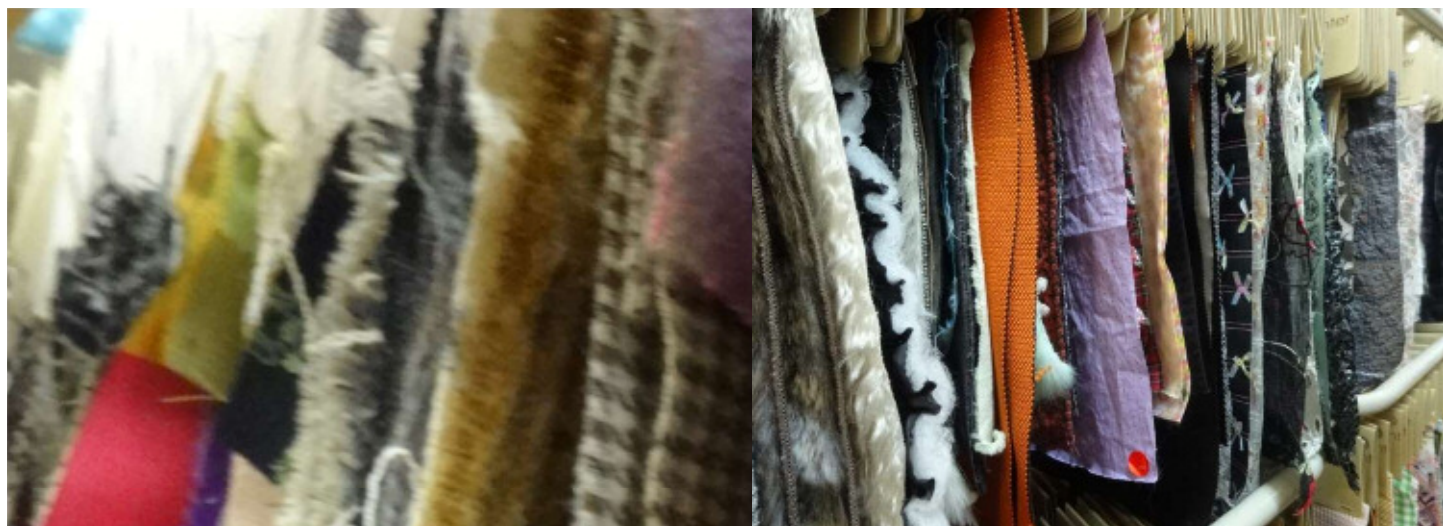
さらに、次代のファッション界を担う学生に向けて、素材講習をはじめとした研修場所としての役割も担っています。

一般の方には、自分たちの町の地場産業への理解を深めて戴きたいという願いを込めて、産地に眠っている多くの在庫生地を買い取るようにしてきました。

東西アパレルの真ん中で、かつ、尾州産地という日本でも最大規模の素材産地内にこのセンターを置くことで、より効果が発揮できると考え、行政支援のもと岐阜県羽島市に設けられました。このような規模で誰でも利用できる施設はどこにもありませんでした。

日本のファッション産業のために、とりわけ世界中で高い評価をされながらもファストファッションが隆盛の国内市場の中で、20年にも渡り苦境に苦しんできた全国の産地の復活を願って設立したものです。このセンターはこれからも日本のものづくりの伝統を守っていくため、積極的にその支援を行っていくことでしょう。

（『テキスタイル・マテリアルセンター 設立にあたって』一部引用）



テキスタイル・マテリアルセンター

【お問い合わせ先】

〒501-6235

岐阜県羽島市竹鼻町蜂尻448番地

岐阜県毛織工業協同組合

TEL 058-391-8511

FAX 058-391-8512

MAIL gikekou@estate.ocn.ne.jp

特集 対談

魅力的素材から生まれる個性的デザイン 〜起点としてのテキスタイル・マテリアルセンター〜

対談の途中で相談に来た、若手デザイナーの松岡さん。彼にとってマテセンとは…
せっかくだので、取材してみました。

「デザイナーさんはどのようなアプローチでデザインを考えていくのでしょうか。」

山「デザイナーさんには素材を見て、どう美味しく料理しようかと考えるデザイナーさんと、デザイン画を書いてそれに合う素材を求めるデザイナーさんがいます。」

「ここに来る人は、素材からデザインを考える人が多いと思ったのですが。いかがでしょうか。」

山「両方いますね。ただ、どちらにせよいい訓練になると思います。素材を知っていると知らないでは完成するものも変わってきますか。岩「デザインを考えるときに、厚さや風合いを知らないでデザインを考えると、ふわふわに見えたけど硬かったなど、自分の思ったなかった生地になることが多いです。」

「素材からデザインを考えるとというアプローチにはどのような特徴があるのでしょうか。」

山「その素材の持つ力をより出す事ができます。デザインから考えると、それに合わせた素材開発になります。素材から考えると、素材力とか産地の技術をより出した素材を使うことができますね。」

「このようなアプローチは今後広がっていくと思いますか。」

岩「それが今の服作りだと思っています。デザインあつての生地というのは昔の話。今は素材からインスピレーションを受けてというやり方をしないと消費者は納得しないと思いますよ。今はみんなファッションの情報を多く持っていますからね。この生地だからこのシルエットでこの風合いを生かしたかったというのを伝えられないと。」

山「そうあるべきというか、そうなる要素はありますね。日本のアパレルは素材力があります。ですから、その素材力を生かす形でやっていったほうが個性的で面白いものが出来ます。」

「実際に来る方はもともとどのような考えを持って、マテセンに来るのでしようか。それとも資料館として見に来た人そういう考えに変わっていくのでしょうか。」

岩「変わっていくのだと思います。ここに来る人は、ネットとか口コミで来る人がほとんどです。実際に来て、沢山の素材に触れた後、実は僕こういうものが作りたいですという形で、自分がやりたいものとか素材のことを話し始めるのです。それを聞いて具体的な話になっていくことも多いです。」

「ここを起点として、素材に対する気づきが始まるということですか。」

岩「そうですね。それでようやく素材の重要性に気付く。最近の若い学生やデザイナーはみんなそうだと思います。」

「ブログの話を考えると、実際に人が、あそこはすごいぞと広げたくなるってことですね。」

岩「そのようです。そういう話があるので、近くに来たときに寄ってくれるんですね。一回来てみたかったとか言っただけで東京とか地方からでも来る人もいます。」

「相談したい場合の流れを教えてください。」

岩…マテセンの素材のなかから、素材見本・風合い見本・厚さの見本を見つけてください。私たちはこの情報で、織り方などを判断します。そのうえで、予算・数量を聞いて、使える素材を判断・提案します。

山…相談は無料です。

「これからマテセンの役割はどのようなものになっていくと思いますか。」
岩…服地だけではなく、テキスタイルに関する、全般的な相談に応じられるようにしていかなければいけないと思います。資材・カーシート・抱っこ紐・犬の衣装・下着、なんでも相談に来ますからね。

山…誰でも気楽に来ることができるような所にしたいですね。学生さんにも興味を深めてもらって、将来的に国内産地を使ってもらえる機会になってほしいです。

「…マテセンにいわば、自分の作りたいものが作れるかもしれない。という希望を持ってきてもらえれば一番いいですね。」

ここで、突然の来訪者。若手デザイナーの方ということで、急遽取材を行うことに！

「そもそもどういうきっかけで最初はここに来たんですか。」

松…もともとマテセンのことは学生の頃から知っていました。でも、ふらっと行って良いところではないかと思っていました（笑）。行きたいけど、行かないままになっけていました。他のデザイナーさんから誘われて、誰でも行けるんだということ cameしました。

岩…最初は敷居が高いと思っていたということ。普通の人が行ってもいいのになって思っていたところで。

「どのようなデザインを描いていますか。」

松…ある種の素人っぽさを残したい。この生地だったらこれが普通って言うのは嫌で、縮絨かけなきゃ成立しない生地だったら、縮絨かけずに使いたい。そういうものを描いています。

「岩田さんにはどのようなことをやってもらっているんですか。」

松…こういうものをつくりたいと言ったものを形にしてもらっています。

「今日の服は全部自分で作られたものですか。」

松…そうです。

岩…実は、後ろのポスターの服も、彼がデザインして、私が生地を作ったものなんです。カットジャカードをランダムにカットしているから生地の表情が面白い。カットする作業は手作業！

「素的な服ですね！」

このあと、松岡さんと岩田さんの真剣な打ち合わせがスタート。
2人のアイデアが融合した新しい生地。どんなものが完成するのか、とても楽しみです！

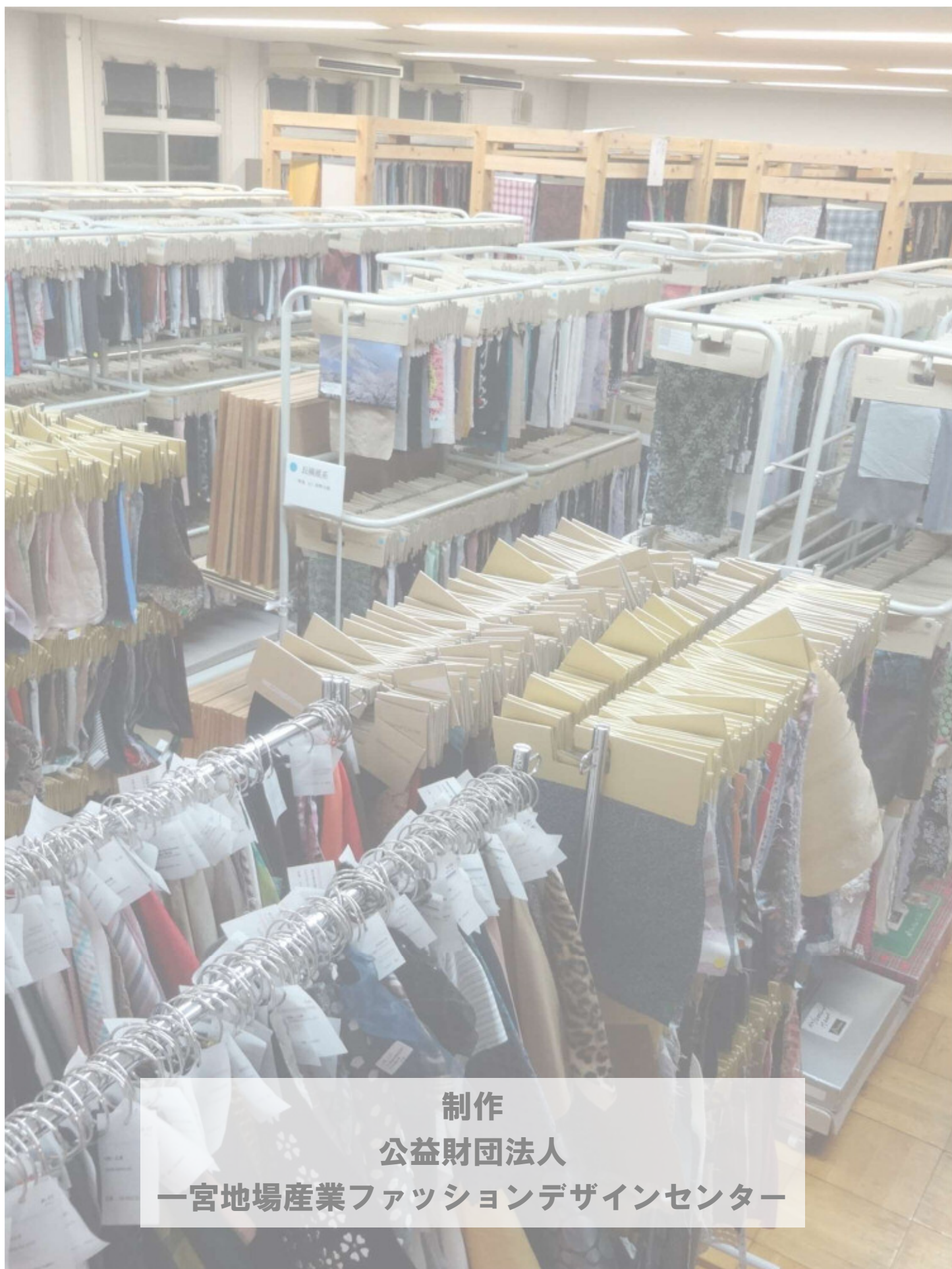


デザイナー

松岡 佑太

Yuta Matsuoka





制作
公益財団法人
一宮地場産業ファッションデザインセンター